

ゼニス ゼロシキマツハ 3

ZERO SHIKI LESS MACH3

◎「これさえあれば」をコンセプトに持つ汎用性の高いジギングロッド。ティップは軟らかめに設定されていて、魚が掛かるとベリーからバットにかけて曲がり、バットパワーで魚を浮かせることができる。グリップは軽くて感度が抜群なコルクを採用。ガイドはKガイドをダブルラッピングにして強度を上げている。ラインナップはZSM62S-3、ZSM62S-4、ZSM62S-6の3種。今回外房の青物で使用したのはZSM62S-3、同4で、同6は水深80メートル以上の釣り場では出番となる。



▲スローなシャクリにも対応する軟らかめのティップ
▶バットガイドのみ強度の高いダブルフットタイプ
▼握りやすく感度に優れたコルクグリップ仕様



品番	全長 (m)	継数	仕舞寸法 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	適合ルアーウェイト (g)	適合ライン PE (号)	適合ドラグ (kg)	本体価格 (税別)
ZSM62S-3	1.88	1	188	181	2.2/11.4	60-140	~3	4.0kg	35,000
ZSM62S-4	1.88	1	188	189	2.3/11.7	80-160	~4	5.0kg	35,800
ZSM62S-6	1.88	1	188	196	2.4/12.3	80-180	~5	6.0kg	36,500

オクマ アゾレス

◎コストパフォーマンスに優れたオフショア用スピニングリール。軽量で耐腐食性に優れたアルミニウムをボディ、サイドプレート、ローターに採用。AlimiLite構造によりボディ変形を防止する高い剛性力で、内部の安定性を維持。加えて、最大ドラグ力が大幅に向上するデュアルフォースドラグシステム、スムーズな回転で滑らかな巻き心地となる高性能ベアリング (HPB)、高負荷がかかっても精密なギアの噛み合わせにより軽快なリーリングを保持するピニオンギアを搭載するなどオクマのテクノロジーが満載されて1万円台の価格はまさに買い得だ。8000P、10000P、16000Pの3機種が10月末発売予定。



AlimiLite 構造
▶ダイカスト製法を用いて剛性の高いフレームを生成



高性能ボールベアリング (HPB)
▼海水使用に対応する高品質なステンレスで生成されたボールベアリングを搭載



ピニオンギア
◀スプールの上下にドラグシステムを組み込み、均一に負荷がかかることによりドラグ力が向上する
▶ピニオンギアの上下2カ所をボールベアリングで補強し、スムーズな回転を実現

品番	ギア比	ベアリング数	自重 (g)	最大巻上長 (cm)	最大ドラグ力 (kg)	糸巻容量 ナイロン	糸巻容量 PE	本体価格 (税別)
8000P	4.8:1	8BB+1RB	528	99	13.2	4号/335m、5号/270m、6号/220m	3号/380m、4号/300m、5号/240m	17,500
10000P	5.4:1	8BB+1RB	700	117	20	5号/430m、6号/350m、8号/265m	4号/480m、5号/400m、6号/320m	18,800
16000P	5.4:1	8BB+1RB	722	117	20	6号/410m、8号/310m、10号/240m	5号/470m、6号/370m、8号/310m	19,800

デュアルフォースドラグシステム
◀スプールの上下にドラグシステムを組み込み、均一に負荷がかかることによりドラグ力が向上する

◀1メートル級のシイラをキャッチ

ワンピッチジャークで食わせるコンビンネーションで誘う村上さんのロッドが弧を描きファイト開始。慎重に巻いて上がってきたのはサンバク (イナダとワラサの中間サイズ)。
「ゼロシキマツハ3シリーズは、様々なシャクリでジグをアクションさせることができる汎用性の高いジギングロッドです」と村上さん。
今度は戴さんにアタリ。ギユギユーンと突っ込むファイトをみせ、やがて姿を現したのは同サイズのサンバク。その後は群れの移動が速く、トリヤマを追いかけて御宿沖の水深50メートルへ移動。トリヤマもあり、ベイトもいて雰囲気はよさそう。
2人が120グラムのジグを投入するといきなりダブルヒット! 戴さんは残念ながらバレルしてしまったが、村上さんがサンバクをキャッチ。これを機に船中あちこちでサンバクがヒットし、次々と取り込まれていく。
戴さんには再投入したジグが途中で止まり、いきなり走り出す大物の気配。アゾレスのドラグがスムーズに動き、ゼロシキマツハ3のバットパワーで寄せて上がってきたのは1メートル級のシイラ。その後、村上さんがサンバクを追釣したところで11時の沖揚がり。信頼のおけるタックルを使い、外房のルアー青物を満喫した2人は、次こそヒラマサを釣り上げると心に決めて帰港したのだ。



▲軽量設計の最新ロッドは一日中シャクっても疲れにくい



▲全長約1.9メートルのゼロシキマツハ3は取り回しがよく操作性が抜群なので片手でもヤリトリしやすい



▲糸絡みにくいKガイドを搭載し、ジグをアンダーキャストするときもトラブルが少ない



▲1メートル級のシイラをキャッチ

ZENITH okuma FISHING ROD INNOVATION INSPIRED FISHING



ゼニス「ゼロシキマツハ3」 オクマ「アゾレス」



★ワンピッチジャークでサンバクをキャッチした戴さん

▲115~155グラムのジグを使用。アゾレス8000Pに巻いているラインはPE4号、ショックリーダーはフロロカーボン60ホンK(18号)

★魚の活性が上がりダブルヒット。ゼロシキマツハ3が弧を描く

ニュータックルで挑む 外房のルアー青物

★秋のベストシーズンを迎える外房のルアー青物。目下はイナダ〜ワラサ、目によって4〜6キロクラスのヒラマサ、2〜3キロのカシパチが上がっている。そんな外房のルアー青物に最適なゼニス・オクマのニュータックルを紹介しよう。

ゼニス・オクマの最新ジギングタックルを携えて、同スタッフの村上稜待さんと戴柏誠さんが乗船したのは周年ルアー青物で狙いで出船する外房御宿岩和田港の長栄丸。
左舷ミヨシに並んで座り、まずはタックルセッティング。2人が持参したのはスピニングタックルで、ロッドが「ゼロシキマツハ3」、リールは10月に新発売される「アゾレス」だ。
「タックルは釣り場で使い分けます。水深40メートルまでは「ゼロシキマツハ3 ZSM62S・3」に「アゾレス8000P」、水深60メートル以上であれば「ゼロシキマツハ3 ZSM62S・4」に「アゾレス10000P」の組み合わせです」と村上さん。
「アゾレスはピニオンギアの上下2カ所にボールベアリングが搭載されていて、スムーズな巻き心地です。それにもかかわらずリーズナブルな価格なので、ジギング入門者にもおすすめです」と戴さん。
この日は5人の乗船者で5時15分出船、10分ほど走り、御宿沖の水深25メートル前後に到着。片舷に並んでドテラ流しで広く探るが、アタリが遠く小移動を繰り返す。
しばらくして御宿沖の水深40メートル前後でトリヤマを発見。開始の合図と同時に2人とも130グラムのロングジグをアンダーハンドで前方にキャスト。着底と同時にジャカジャカ巻きで誘い、